

○富村健太・浦野 知・吉田めぐみ・中島 隆

### 自然発病圃場におけるムギ類赤かび病菌個体群の分布様式

Tomimura, K., Urano, S., Yoshida, M. and Nakajima, T.: Spatial Distribution Pattern of *Fusarium graminearum* Population in Naturally Infested Field.

個体の空間分布は、ランダム分布、集中分布および一様分布に分けられるが、これまで植物病原菌を対象に分布様式を詳細に解析した報告は少ない。分布様式を明らかにすることは、病原菌の移入および圃場内での感染拡大のメカニズムを知る上で重要な情報源となる。そこで本研究では、コムギ上に自然発病したムギ類赤かび病菌 *Fusarium graminearum* 個体群について、圃場(50 m x 10 m : 12 畦) を 120 の方形区(5 m x 1 畦)に分け、スポロドキアを形成した穂(発病穂)の分布を調査した。調査は5月9日より4日毎に計4回行い、発病穂を個体とみなして区内の平均他個体数を算出した。これを用いて $I_{\delta}$ (アイデルタ)指数を算出し、分布の集中度について検討した結果、4回中3回の採集時毎に新たに検出された本菌の個体群はそれぞれ集中分布していることが明らかになった。また、それぞれの採集時までの累積の分布は、集中度は増大せず有意性が増大していることから、前調査時の個体群の集中点とは独立して新たな集中点を形成していることが示唆された。

(九州沖縄農研)

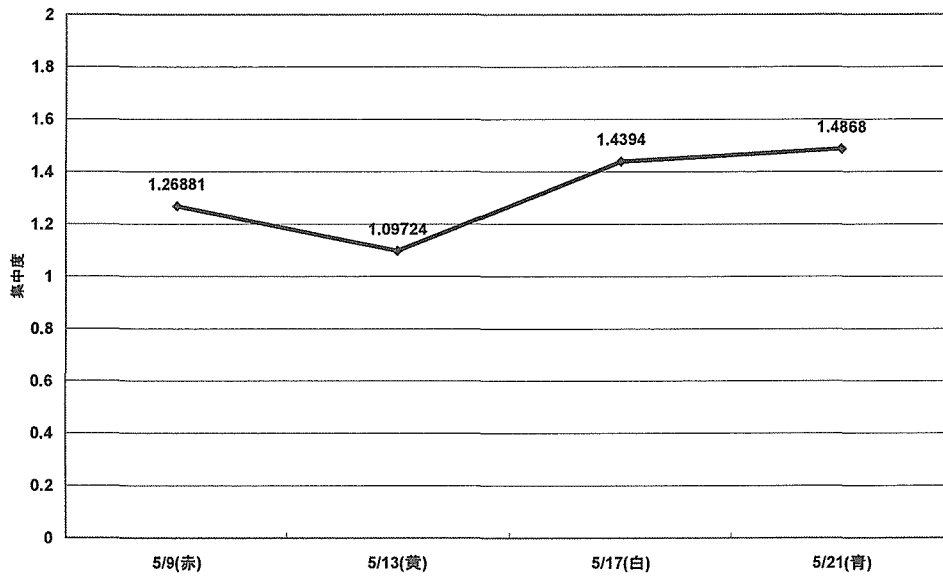


図 ムギ類赤かび病菌個体群における $I_{\delta}$ (アイデルタ)指数の比較